

宮城県理事・広報委員会委員 を拝命して

土木地質（株）代表取締役社長
橋本 岳社



はじめに

昨年5月の定期総会において宮城県理事に選任され、同時に広報委員会渉外部員に任命された、土木地質株式会社の橋本岳社と申します。

未だ若輩者なので、協会の諸先輩方の足を引っ張らぬよう鋭意努力し、震災復興特需後の東北地方の地質業界を盛り上げるよう邁進致します。どうか御指導・御助言の程よろしくお願い致します。

来歴

私は、昭和49年1月生まれで、第1次オイルショックの時と重なります。母からトイレットペーパーの買い占めなどの話は聞かされましたが、本人には記憶が一切無く、小中高大と特に荒れる事も無く地元仙台の学校に進学しました。

高校時代は「考古学」に興味を持ち、毎年夏休みには発掘作業に従事し、国分尼寺や多賀城建立の瓦などに触れていました。大学に入学後もサークルは「考古学研究部」に入部して、将来はこの道で飯を喰っていきたくて思っていました。

夏の発掘はいつも炎天下で、当時は水分を取ると疲れが出ると言われて（現在は水分をこまめに取らなければ駄目です）、休憩時に給水所へ駆け込んだものです。しかし、平瓦・丸瓦・重弁軒丸瓦・土師器・須恵器、等々が出土したときの喜びは格別なものでした。私が一番印象に残っているの

は、親指の指紋が付いた土器の欠片です。土器形状をなだらかにするための古代人の匠の痕跡を感じて、思わず指を重ねて過去に思いを巡らせたことを今でも鮮明に覚えています。

大学2～3年生頃から、あんなに熱心に行っていた考古学から少し距離を置き、文化系サークルの統括団体代表として大学からの予算獲得交渉や、大学祭等の裏方作業を行うなど学生会活動の楽しさに目覚めました。現在でも、その当時のメンバーとは付き合いが有り、生涯に亘る友人となっています。

また、この頃からバイクにはまり、友人から格安で譲って貰った400ccのバイクで夜な夜な走り込み、友人とバイク談義に花を咲かせては時間が経つのを忘れる日々を送っていました。

大学は楽しく過ごしすぎて卒業するのに1年多く掛かり（笑）、友人達を見送ろうと卒業式の会場に行った時は、大学の職員（顔なじみで、私の状況把握済み）が私を確認して「在校生は2階だぞ（ニッコリ）」と案内してくれ、教授達からは「来年も橋本君の顔が見られるんだ、なんか安心するなあ〜」等とからかわれました……。

人より1年多く過ごした学舎を巣立ち、初めて社会人になった勤務地は東京でした。

今ならば笑い話になるのですが、当時の

私の東京のイメージは、「毎日曇天、そして道路や歩道、公園に至るまでコンクリート舗装され、木々の緑というものは存在せず、まさにコンクリートジャングル!」。当時はインターネットも発達しておらず、テレビや雑誌の情報のみ。勿論、東京に遊びに行ったことの無い地方出身者は「東京＝怖いところ」と信じ続けていました。まあ、東京も普通の所だと理解するのに、然程時間は掛からなかったですが・・・

東京生活は初めての一人暮らしだったので開放感に溢れてしまい、毎週末ライブハウスに行ってインディーズバンドに聴き惚れていました。仕事では、地図を片手に「都内」という巨大迷路を駆けずり回る日々を送っていました。

そんな中、都会の風景は新鮮で、東京タワー・新宿都庁・出来たばかりのお台場等々、「TVと同じだ!」と、いま思い出しても田舎丸出しでした。

勤務先は「地盤調査が主体の建設コンサルティング会社」で、営業のイロハを教えられました。修行という名目で入社しており、3年後に仙台に戻るという約束でしたが、3年目に私の失敗で1,000万弱の取りこぼしが発生してしまいました。営業の先輩から「お前が一人前になるならば、1,000万は安いよ」と、翌春に帰仙する事が決まっていた私に文句を言うのでも無く温かく見守ってくれました。しかし、その言葉を聞いたからには「挽回しないと帰れない」と

思い、修行を1年延長致しました。結果は、まあボチボチだったと書いておきます。

仙台に戻り、弊社に営業職として入社してからは東北各地を駆け回りました。

当時は、現説（閲覧）と入札は役所で行う事が普通でしたので、各県の四季を眺めながら東奔西走し、桜の時期の弘前城や、黄昏時の（それこそ妖怪が出てきそうな）遠野地方、星空が綺麗だった下北半島など、営業の傍ら東北の風景を満喫し、改めて東北の素晴らしさに気付かされもしました。

その後、経理や総務業務等を習得し、昨年10月に弊社代表取締役役に就任して現在に至ります。

以上、私の来歴を中心に書かせて頂きましたが、自分という人となりが分かって頂けたか甚だ不安であります。

これからも地質業界発展のために「粉骨砕身」努力する所存ですので、皆様どうか宜しくお願い致します。